

「解析学勉強会@野田」

- 講演者：内田 俊氏（早稲田大学）
 - 題目：極大単調作用素を主要項とする非線型発展方程式に対する解の右微分可能性について
 - 日時：2019年1月21日（月）15:20～16:20
 - 場所：野田キャンパス 4号館3階 数学科セミナー室

[analsemi, 2018](#)

abstract

Hilbert 空間上の非線型縮小半群と非線型極大単調作用素がHille-Yosida の定理と同様な関係で結びつくことはKomura (1967) により最初に指摘された。これを皮切りに、極大単調作用素、特に汎関数微分の一般化である劣微分作用素を主要項とする非線型発展方程式理論の構築、あるいはこれを応用した非線型偏微分方程式の解析が現在に至るまで広く行われている。本講演ではまず極大単調作用素、特に劣微分作用素の基本的性質や具体例を紹介し、これらに支配される抽象発展方程式に対する解の右微分可能性の特徴付けについて述べる。

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/analsemi/2018/b03>

Last update: **2021/02/11 09:57**

